

日本コミュニケーション学会 中部支部 ニューズレター

～2011年3月発行～



ご挨拶

2011年3月11日に発生した地震により、東北地方を中心に甚大な被害が出ました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りし、現在、避難生活を送られている方、物資やインフラが不十分な中生活をされている方々に、遠方からですが、エールを送りつつ、できることから行動していきたいです。コミュニケーションに大切なことに共感力や想像力があるかと思えます。相手の思いの深さや体験を全て理解はできないけれど、少しでも理解しようとする努力は、このような時だからこそ必要なのではないかと被災地のニュースを見ながらここ愛知でひしひしと感じます。

2010年度6月より、支部長の任につかせていただいております。しばらく育児でドタバタしておりましたが、徐々に落ち着いてきたので、「近くにコミュニケーションを学べる場と機会があるように！」と、2010年年次大会の支部会や昨夏の会議にご参加いただいた方々と活動を起こしてきました。これまでの支部長にもご参加・アドバイスいただき有難うございます。なるべく開かれた会にして、みんなで盛り上げていきたいなと思っております。これまでの活動の報告をこのニューズレターで報告出来ることに感謝いたします。
支部長 福本 明子（愛知淑徳大学）

年次大会・支部会議 予定

例年、年次大会初日の昼に支部会議の時間が設けられています。2011年は、年次大会が西南学院大学(福岡市)にて6月18・19日に予定されています。福岡での支部会議に是非お越しください！今後の活動について話し合い、ご参加を募りたいと思います。残念ながら福岡まで来られない方は、メーリングリストで情報を共有できればと思っております。

目次

ご挨拶	1
年次大会・支部会議予定	1
2010年 支部大会 報告	2
2010年 予算報告	3
支部ホームページ (HP)	3
支部メーリングリスト (ML)	3
書評プロジェクト	4
書評	5-14
会員レポート	15

中部支部 事務局

[住所] 〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
愛知淑徳大学 ビジネス学部
福本研究室 内
[TEL] 052-781-1151
[FAX] 052-781-7259
[E-mail] afkmt@asu.aasa.ac.jp



2010年 支部大会（10月26日） 報告

セッション1: 池田先生をお迎えし、編集・執筆時のエピソード等お話しいただきました。討論者は藤巻先生、森泉先生で、お二人の研究領域の観点からコメントいただきました。森泉先生「話を聞いた時は気軽な会という話だったのですが・・・」と、岡部先生や CAJ 会長・宮原先生を始め総勢 14 名のご参加で、緊張感ある実り多い会でした。

開催裏話: 2010年8月下旬、支部大会開催に向けて準備会議をもちました。集まったメンバー4名が実行委員になるというむちゃぶり役割分担でしたが、快く引き受けていただき有難うございます。

当日、中西先生が教室を迷われたので、次回開催は、表示や連絡をわかりやすくできるよう徹底します！！

「ともすれば世間の期待にこたえるだけで終わってしまいがちな
異文化コミュニケーションという分野だけに・・・」

セッション2 授業例報告

「当日参加の方から報告がなければ、私たちで！」となり実行委員3名（花木先生、佐藤先生、福本）が授業例・資料の報告会を行いました。テキストの活用や、授業に含むべき概念、他分野のテキストをコミュニケーションの授業で用いる影響、など参加者の方からの質問で奥行きが広がりました。

セッション3 懇親会

懇親会は、「池田先生が地酒に目がないらしい」という藤巻先生の情報により、佐藤先生が見つけてきて下さった大会会場から歩いて5分強の居酒屋「こん菜屋」で。隠れ家的な場所、和気あいあいと親睦を深めました。実は、ここの日替わり定食、¥650なのに、品数が多くてかなりおいしいですよ！

中部支部大会のセッションIに参加して

池田理知子(国際基督教大学)

10月16日の中部支部大会では、「『よくわかる異文化コミュニケーション』を読む」と題して、ミネルヴァ書房から昨年出版された拙著を中心に討論するという私としてはありがたいが、同時にどうのご批判を受けるのかわからずに不安なセッションが行なわれたのだった。指定討論者が藤巻光浩先生と森泉哲先生ということからも、拙著が多角的なクリティークの俎上に乗せられることは必定と覚悟して、セッションに臨んだのだったが、意外にもお褒めの言葉をいただくこととなり、今後の励みとなった。しかも、お2人からいただいた的確なコメントや質問は、これからこの本を授業で使っていくうえでおいに参考になるものであり、その後の参加者との議論は、異文化コミュニケーションという分野を考えていくにあたり、とてもよい刺激となった。そして、なによりもうれしかったのは、このセッションに岡部朗一先生が足を運んでくださり、コメントをくださったことだった。

ともすれば世間の期待に応えるだけで終わってしまいがちな異文化コミュニケーションという分野だけに、中部支部のこうしたセッションで批判的かつ建設的な意見交換をすることは重要だと改めて思った。福本明子支部長をはじめとした中部支部の皆様、ありがとうございました。

急なお願いにもかかわらずお引き受けいただき、池田先生、本当に有難うございました。編集者の方も来られ、「学生に考えてほしい」という想いも語っていただき、教える側として心に残りました。

日本コミュニケーション学会 中部支部予算書

2010年度(2010年6月1日～2011年5月31日)

<収入の部>

項目		2010年度 予算	備考
支部活動助成金		60000	
合計		60000	
<支出の部>			
項目		2010年度 予算	備考
支部大会関係費	謝金	40000	交通費込み
ニューズレター関係費	通信費	5600	80円×70通
	事務費	3000	宛名ラベル、封筒、のり
HP関係費		10000	立ち上げ、維持
次年度繰越金		1400	
合計		60000	

「支部予算」「中部支部ホームページ」

<支部予算>

2010年度の予算を上記のように報告致します。6月の支部会で決算報告をします。2010年度は支部助成金内で活動を実施できました。本部からの助成は、申請に応じて毎年支給されます。金額は、支部会員数に応じて決まっています。ちなみに、去年の名簿によると、中部支部のCAJ会員は45名です。

出来る限り長「支部大会の参加費無料」を維持したいので、今後の活動内容の拡充度合いに応じて外部資金の調達を考えていく予定です。皆さま良いアイデアがあれば、ご提案お願いします！去年の支部会議で「いずれは科研に！」と声が上がリ、盛り上がりました。

<中部支部HP>

藤巻先生(院生さん?!)のご尽力で、中部支部ホームページ(HP)が立ち上がりました。(福本の原稿納入が遅れ、年内立ち上げの予定が年明け2月になってしまいました。ごめんなさい。)

予算の関係で、民間のドメインを利用しています。ご了承ください。HPアドレスは、<http://www.geocities.jp/cajchubu/index.html> です。今後の活動予定や活動報告など情報を、広く関心ある方々にお届けする予定です。

よって、中部支部の情報共有手段は、次の3つです。

- ・中部支部HP
- ・ニューズレター(年1回3月発行予定)
- ・中部支部メーリングリスト



メーリングリスト

2010年初秋にメーリングリスト(ML)を用意しました。こちらにも予算の関係で民間のもの(Yahoo!グループ)です。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/caj-chubu/>

どなたでも関心のある方は、自分で登録できるようになっています(いるはず・・・)。ニューズレターだから書きましたけど～。会員・非会員、所属支部にかかわらず、ご登録大歓迎です！

<重要> 会員のうちメールアドレスをご登録されていない方が11名ほどおられ、こちらでMLに登録できておりません。ご自身でご登録くださるか、事務局(愛知淑徳福本 afkmt@asu.aasa.ac.jp)迄ご連絡をお願い致します。

中部支部ニューズレターと書評プロジェクト



背景: 中部支部の活動内容について話し合っていた時に、勉強会の話が出ました。「身近で学び合える機会があるといいね」と。ただ、日常業務が忙しかったり、遠方から来るのも難しからうということになりました。

そこで、発行が決まっていたニューズレターに中部支部の活動の独自性として書評を毎回掲載してはどうか、支部大会や年次大会につなげていけばどうか、と発展しました。

とりあえず初回は、テーマを設定し、10月の支部大会やMLを通じて参加を募りました(企画の趣旨説明、再掲載)。6月の年次大会には中部支部パネルとして、この書評を基に議論を発展させたセッションを行います。リーディングリストは、Yahoo!グループの掲示板に掲載されています。

特別企画: <コミュニケーション学とリベラリズムの周辺>

ここ十数年、日本の高等教育におけるコミュニケーション学は、追い風もありながら、一方で危機に瀕していると言うことも可能である。多くの研究者が米国で「コミュニケーション学」の学位を取り、日本の大学で「コミュニケーション学」を看板に掲げ教鞭をとるようになってきた。これは「追い風」ではある。一方、それぞれの研究者の「コミュニケーション」に対する立ち居地は多種多様である。そのため、^{ディシプリン}学術領域として、この領域は耐えうるかという危機感もある。現在の日本の大学社会において「コミュニケーション学部」ができるとしたら、それははたして存在が可能なのか、という「問い」に答えることができるだけの、思想的基盤、ならびにその歴史体系の整備が求められている。

この「問い」は、米国のコミュニケーション学者にとっては、あまりにも自明すぎて議論の対象とならないものかもしれない。もしかしたら、考えたこともない「問い」かもしれない。もちろん、日本においても、この「問い」に答えるために、教育・研究に従事している方もいるが、この「問い」自体はそれほど議論の対象となつてこなかった。それだけに、日本のコミュニケーション学者のための「コミュニケーションを<学>として扱う歴史的、社会的、思想的意義」に関する議論の提示が必要であろう。

したがって、中部支部では、この「問い」を念頭に置き、「コミュニケーション」に関して、それが学として定着してきた米国において、いかに思想的、歴史的、社会的背景を持ってきたのか、または今後持つ可能性を持っているのかを問うための企画を継続的に持つことにした。昨年の年次大会でも、池田理知子先生をお招きした企画や会員による教育内容に関しての報告においても、この「問い」は掲げられた。それほど、多くのコミュニケーション学者が真剣に受け止めるべき重要な「問い」なのである。

今回は、特別企画<コミュニケーション学とリベラリズムの周辺>と銘うち、この大きな「問い」に答えてゆくための第一歩を踏み出したいと思う。ここでは、米国を含む英語文化圏における思想的潮流や社会現象を念頭に置き、そこにおけるコミュニケーション学の歴史的地平や可能性を探るために、この「問い」に関係する文献を取り上げ、何名かのコミュニケーション学者による書評を掲載してみたい(文献のリストは、昨年の支部大会において公開された)。ここに掲載された書評を知的資源として、今後、みなさんが上にあげた「問い」に答えてゆくための一助となつてゆけば幸いである。

なお、今年度は特別企画としたが、来年度以降は、特定のテーマに縛られることのない書評も受け付けて行きたいので、奮って書評に参加していただきたい(もちろん、ここにあげた「問い」に継続的に取り組むための特別企画も組む予定でもある)。

また、多くの方に門戸を開き、議論を活性化させてゆくのが本支部の方針でもあるため、非会員の院生、他の支部の方の投稿も歓迎しています。

.....

会員レポート： ニューメキシコで学んだこと

森泉 哲(南山短期大学)

2008年8月より2010年8月までアメリカ・ニューメキシコ州アルバカーキに留学いたしました。目的は、ニューメキシコ大学コミュニケーション・ジャーナリズム学科の博士課程の大学院生として(異文化)コミュニケーション学について研究することでした。なぜニューメキシコなのかと疑問にもたれる方もいるかもしれませんが、ニューメキシコ大学からしか良い知らせがなかったというのが後ろ向きですが最大の理由です。とはいっても積極的な理由としては、現在コミュニケーション学では、特に文化との関連に関する領域では様々なパラダイムからの研究がなされていますが、それらの講義科目が充実していること、また日常的にもネイティブ・アメリカン、ヒスパニック、メキシコ移民など様々な人種・民族が居住する地域でのコミュニケーションのあり方がどうなっているのかということにも関心がありました。日常生活で感じた異文化については、この記事を読んでくださっている方に実際に足を運んで観察していただくことにして、本大学のカリキュラムについて特に印象に残ったものを中心にまとめてみたいと思います。

最初の学期での必修科目である「コミュニケーションの歴史と哲学」では、コミュニケーション領域(対人、文化、組織等)と研究パラダイム(社会科学的、解釈的、批判的、レトリカル、記号論的研究)の両面からどのような理論が構築されているのかを概観した後、自分の立ち位置についてはっきりさせるということが目的とされていました。学部生を対象とした「コミュニケーション研究方法」の授業でこの話題はすでに扱っているようですが、私にとっては、自分の研究パラダイムについて考えるのは初めてであり、自分のコミュニケーションに対する見方がいかに一面的である部分しかみていないのかということが痛感させられ、日常面でも研究面でも自分のアイデンティティが大きく揺らいだ時期でした。そのほか、「異文化コミュニケーション」でも、3つの異なったパラダイムから記念碑的な論文を読んでディスカッションし、それぞれのパラダイムの特徴について比較検討していくものでした。どのアプローチでも前提となっている仮定や研究目標が異なっているので相容れない部分は大きいので、自分としてはなにを採用するのかについて説明できるようにならなくてはならないということが強調され、異なったアプローチをとる教授陣を集めてパネルディスカッションを通して学ぶこともありました。大学院の授業科目の多くは、少なくとも学会発表できる論文を執筆することが課題であったので、とても大変でしたが、充実した内容でした。今まで書いたことのない批判的・解釈的立場からの論文は大変苦労しましたが、その分コミュニケーションを大きな視点で眺めることができ、今後の研究に生かせるのではないかと思います。

異なったパラダイムをどう扱っていくのかは一生涯苦悩していく課題だと思いますが、現時点では、研究者としては、自分の慣れ親しんだアプローチや関心のあるテーマで研究を進めざるをえないですし、(必ずしもできないのですが)その学問の発展や社会に対してその部分でしか貢献できないのではないかと考えています。しかし、教育者としては、学生に対しては様々な見方や考え方を紹介することを通して、複雑な社会に対応する力や社会的な問題を解決しようとするきっかけがコミュニケーション学で提供できるのではないかと考えています。最後に、このような留学の機会を許可していただきました南山短期大学をはじめ、留学準備や留学中にお世話になりました先生方・皆様に改めてお礼を申し上げて、筆をおかせていただきます。



お礼 と 編集後記

皆様のご協力のもと、2010年度の活動を終えることができました。むちゃぶりでしたが、皆様の知恵とネットワーク頼みでなんとか活動や行事を企画・実施でき、大変感謝しております。これからも「近くに学べる場があるように！」と活動を継続していきたいです。次年度もよろしくお願い致します。

堅いテーマの書評の後をどうしめようかと、軽い気分で記事を依頼したら、まじめな森泉先生からは書評の続編のような「まじめな滞在記」があがってきました。ニューメキシコっぽいイラストを入れ、ポップにしてみました！いかがでしょうか？

初めてのニューズレター作成のため、最終頁を白紙にしてみました、ははは。その場しのぎの情報を入れるよりはいいなかと…次回は、4の倍数になるように、企画から計画的に進めます～！（福本）

